

I. 本プロジェクトにおける調査結果

「1000 時間体験学修基礎体験領域」の成果を検証し、教師力の育成に向けての改善と方策を検討するため、基礎体験活動に臨む学生達と受け入れ事業所に対してアンケート調査を行った。その結果については、島根大学教育学部附属教育支援センターと基礎体験活動の受け入れ事業所とで実施する「基礎体験活動連絡会議」で報告したほか、教育学部附属教育支援センター紀要『教育臨床総合研究』に発表しているが、下記にその一部を抜粋し、紹介する。

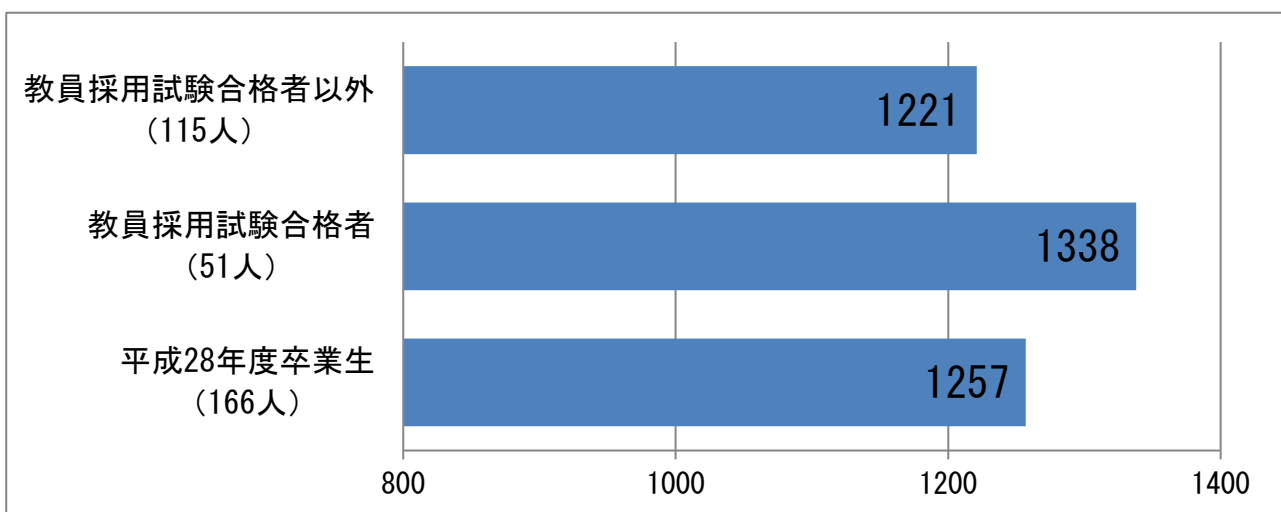


図 1. 平成 28 年度卒業生の基礎体験活動平均体験時間数 (単位=時間) 平成 28 年 11 月末現在

平成 28 年度卒業生の基礎体験活動における 4 年間の平均体験時間数は、1257 時間である。教員採用試験(小学校及び中学校)の合格者の平均体験時間数をみると、1338 時間であり、学年全体の平均時間 1257 時間を大きく上回っている。教員採用試験の合格者は、それ以外の学生に比べて基礎体験活動に積極的に参加していることがわかった。学生の教師力育成に向けて、基礎体験活動への参加が一定の貢献を果たしている可能性が示唆される。

表 1. 平成 28 年度基礎体験学修(選択)及び実習 Semester 体験の状況 平成 29 年 2 月末現在

フィールド	項目	件数
基礎体験学修(選択)	事業所数	184
	活動数	391
	参加人数	2305
実習 Semester 体験	事業所数	54
	活動数	77
	参加人数	186
合計	事業所数	238
	活動数	468
	参加人数	2491

平成 28 年度の基礎体験学修(選択)及び実習 Semester 体験の状況について集計した結果、表 1 に示すような状況がわかった。1 年生から 4 年生までが参加する基礎体験学修(選択)においては、のべ 184 件の事業所から 391 件の活動を提供していただき、のべ 2305 人の学生が活動に参加していた。また、3 年生が後期に参加する実習 Semester 体験では、のべ 54 件の事業所から 77 の活動を提供していただき、のべ 186 人の学生が活動に参加していた。

このうち、基礎体験学修(選択)について、事業所と学生を対象に実施したアンケート調査から、活動の現状を把握し、今後の指導に活かす方策を検討する。

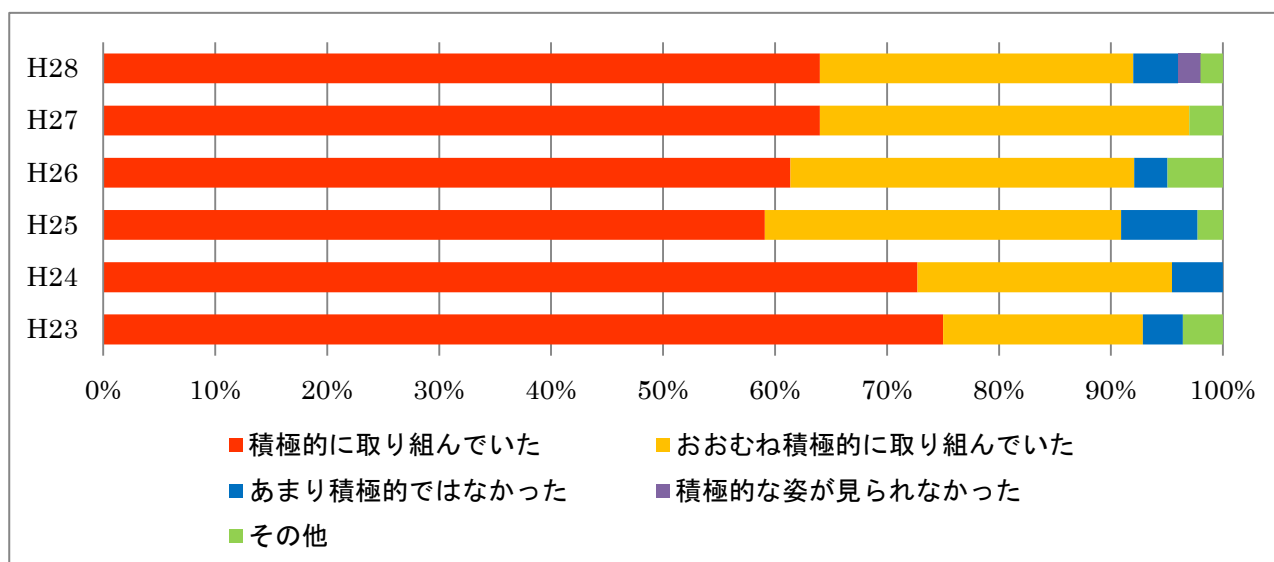


図 2. 受け入れ事業所による参加学生の取り組み状況の評価

平成 29 年 1 月末現在

基礎体験学修(選択)における活動の受け入れ事業所に対して、参加学生の取り組み状況や、学生に対する評価・要望等について調査した。その結果、「積極的に取り組んでいる」「おおむね積極的に取り組んでいる」という受け入れ事業所からの回答を合わせると、90%以上の学生が活動に積極的に取り組んでいることがわかった。

次いで、受け入れ事業所からの参加学生への評価を自由記述により回答していただいたところ、以下の結果を得た。肯定的な評価については○、改善が必要な評価については△を付して示す。

肯定的な評価

- 積極的に、熱心、意欲的、礼儀正しい
- 回数を重ねるごとにスキル・自信が向上
- 目標をもった活動参加
- 児童生徒との良好な関わり合い

改善が必要な評価

- △指示待ち
- △遅刻及び直前のキャンセル(体調不良、ドタキャン)
- △学生からの連絡の不徹底(名前なし、返信なし)
- △目的意識の欠如

目標をもち、積極的に・熱心・意欲的・礼儀正しい態度で活動に参加しており、児童生徒との良好な関わり合いもできて、回数を重ねるごとにスキルや自信が向上している学生もいるが、その反面、活動に対する目的意識がなく、活動に対する指示を待っている学生もいることや、事業所からの連絡に返信をしなかったり、遅刻や直前のキャンセルをしたりするなどマナー面で問題がある学生もいることがわかった。

事業所からの要望としては、「活動内容を理解して参加してほしい」「連絡マナーをきちんとしてほしい」「事前打ち合わせには参加してほしい」「体調管理や意欲の面で、子どもとかかわる意識をもって活動に参加してほしい」などがあげられた。

一方、本センターでは、各学年を対象とした基礎体験セミナー時に、各学生の基礎体験活動の状況についてアンケート調査を実施している。そこで、4年間の基礎体験活動の体系化において、地域に出かけ多様な体験をする時期と位置付けられている1年生と2年生を対象とした調査から、基礎体験活動についての困りごとや悩みを自由記述により回答してもらった。その結果、以下の内容が明らかになった。

●活動時間及び内容について

(1年生)

- ・「時間が余ったから2.3時間自由にしていよいよ。」と言われた。記載されている時間と実際の活動時間に大きな差があるのはやめてもらいたい。モチベーションが下がってしまった。
- ・部活動をしている学生でも、手軽に参加できるような時間の融通の利く体験があるとよいと思った。
- ・通年の活動では、事業主の方にサインをもらうタイミングが分からなかった。
- ・お盆や年末年始の前後は、帰省と重なり活動に参加しづらかった。
- ・どうやったらリーダーシップが取れるようになるか。場の雰囲気とか相手の気持ちとかを考えて動けるような人になりたいと活動を通して感じた。
- ・通年の活動に登録したが日程が合わずあまり参加できなかった。他のメンバーに申し訳なく思い、気がかりだった。
- ・募集用紙に書いてある内容と実際の活動内容の違いが気になった。

(2年生)

- ・基礎体験で、企画から運営までする中で、活動時間中だけで終わらず、大学に持ち帰ってすることへの負担感が大きい。
- ・通年の活動で、週2日で募集されていたので、土曜日に参加しようと思い活動を始めましたが、実際に土曜日に行くと、生徒がいないため行く必要がなくなり、通年にも関わらず4・5回程度しか参加できなかったのが残念だった。
- ・行ったその日に、急にあれこれとやってもらいたいことを言われ、自分たちの準備+αで、寝る時間もないような活動になった。事前に準備してきてもらいたいものや学校で集まってできそうなもの等は連絡するようにしてもらいたい。
- ・グループでローテーションを決めて活動したが、ずっと来られない人がいると、シフトがいつも自分だけになってしまい、予定が既に入っているときなど、誰も行けなくなってしまい困った。人数を増やすか、サブメンバーをつけるなどして、応援を呼べるようにした方がよいかと思います。
- ・中学生以上の子どもと関わる活動に、もっとバリエーションがあるといいなと思います。

(学内・フリースクール・特別支援関係など)

- ・事業者側の申請ミスがあり、活動がなかったことにされ困ったので、気をつけていただきたい。
- ・何らかの公共交通機関を利用しなければいけないので、天候等で中止になるときなど早めに連絡してほしい。

●交通費などについて

- ・振込金額と実際にかかったお金が違っていたが、交通費の明細が無いためよく分からなかった。
- ・交通費が自己負担だと、参加したい内容でも断念してしまうことがある。できるだけ交通費を負担してほしい。
- ・交通費以外の活動にかかる費用もできるだけ負担してほしい。
- ・あまり参加しすぎると金銭面の負担が大きくなり心配になった。
- ・参加したいが金銭的に苦しいことがあり、参加しづらかった。
- ・活動に参加してから思ったより費用がかかると感じるがあった。
- ・交通費がかかったり、食費がかかったりする活動は行きたくても悩んでしまう。

図3. 基礎体験活動における参加学生の困りごとや悩み 平成29年2月末現在

参加学生の困りごとや悩みからは、「記載内容と実際の活動との違い」「子どもや保護者とのかかわり方」「活動時間のずれ」「交通費や参加費の負担感」「活動の運営に関わる学生間の人間関係」「中高生とかかわる機会の不足」などが解決すべき課題として抽出された。

II. 調査結果をうけての指導内容の検討と改善

本プロジェクトにおける調査をうけて、基礎体験活動での課題解決に向けての指導内容を検討した結果、以下の①～③に示す指導上のガイドラインが設定されることとなった。平成29年度からは、以下のガイドラインに基づいて基礎体験活動の指導を行うこととなる。

①基礎体験活動の事前・事後での学内の指導におけるガイドライン

1)事前 指導において

- ・参加学生一人一人について、参加理由や活動内容を確認する
- ・参加学生一人一人について、個人目標を設定させる
- ・服装、礼儀、マナー、連絡の方法等について指導する

2)事後指導において

- ・参加学生一人一人について、体験時間数を確認する
- ・活動の様子の聞き取り を行う
- ・参加学生一人一人について、活動の成果や課題を次の活動への目標設定 につなげる

②学年別ガイダンスでの学内の指導におけるガイドライン

前期・後期の初めに、全員で基礎体験活動における以下のルールを確認する

- ・参加手続きについてのルール
- ・緊急時の対応 についてのルール
- ・活動の欠席・遅刻についての電話連絡のルール
- ・守秘義務についてのルール
- ・子どもとの連絡先交換をしないことのルール
- ・移動は原則として徒歩、自転車、公共交通機関によることのルール
(例外として自家用車等を使う場合は申請書を提出することの指導)

③受け入れ事業所での活動におけるガイドライン

また、受け入れ事業所に対しても、以下のガイドラインをお示しし、具体的な事項をあげて、ご協力をお願いすることとした。

- ◎ 教育学部生の教職志向を高める
- ◎ 教育学部生の教師力（10の教師力）を高める
- ◎ 体験先での学生指導体制が確立されている
 - ・活動中に、指導法やマナー等について適宜学生に指導していただくこと
 - ・活動後に、学生と話をする機会を設けていただくこと
 - ・活動記録票に学生へのコメントを記入していただき、押印 していただくこと
- ◎ 活動の安全・安心が保証されている
 - ・学生の安全確保について
 - 活動時刻は午後8時までとし、活動時間は1日15時間までとすること
 - 可能ならば保険に加入していただくこと
 - 学生にかかわる事故（被害、加害）の連絡方法についての確認

基礎体験活動に臨む学生達と受け入れ事業所に対して実施したアンケート調査の結果、活動の現状と課題を把握することができ、それに対する方策を検討することができた。平成29年度以降は、設定されたガイドラインに沿って活動の指導を行うこととなる。基礎体験活動への参加が、各学生の教師力育成に向けてさらに有効にはたらくことを願ってやまない。

最後になったが、学生の活動を受け入れ、指導してくださっている事業所の皆様へ感謝を申し上げ、今後とも未来の教師の育成に向けて連携し合っていくことをお願いして、本プロジェクトの実施報告としたい。